

令和3年度 学校評価(自己評価)集計結果 〈学校〉

青森県立青森聾学校

回収率 100% (全26名)

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を○で囲んでください。

4 そのとおりである 3 おおむねそのとおりである 2 やや違う 1 違う

* 各評価項目の平均は、小数第2位で四捨五入したものです。

NO	評価項目	評価	H31 平均	R2 平均	R3 平均
1	指導力の向上について		3.4	3.3	3.2
1-1	自分は、個々の幼児児童生徒のアセスメントを適切に行い、障害特性に応じた授業実践を行っている。	評価 人数	4 8	3 17	2 1
1-2	自分は、幼児児童生徒に分かりやすい授業を目指し、授業改善に取り組んでいる。	評価 人数	4 10	3 16	2 1
1-3	自分は、子ども一人一人の実態とニーズに対応した言語発達の向上に努めている。	評価 人数	4 7	3 18	2 1
1-4	自分は、年間計画に基づいて計画的に授業を行い、実態や特性に配慮した授業の工夫に努めている。	評価 人数	4 9	3 16	2 1
1-5	自分は、幼児児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着・向上をさせることができている。	評価 人数	4 3	3 20	2 3
1-6	自分は、研修会や校内研修等に参加し、聴覚障害教育や教科等の専門性の向上に努めている。	評価 人数	4 7	3 18	2 1
2	支援計画や指導計画について		3.6	3.4	3.4
2-1	自分は、幼児児童生徒の実態を的確に把握し、障害特性に応じた指導計画の作成を行っている。	評価 人数	4 8	3 17	2 1
2-2	自分は、個々の幼児児童生徒の課題を焦点化し、的確な指導仮説・方針を設定している。	評価 人数	4 8	3 16	2 2
2-3	学校は、交流及び共同学習、地域での奉仕活動や行事等の交流活動を行い、社会性や豊かな人間性を育てている。	評価 人数	4 11	3 14	2 1
2-4	学校は、各種行事や児童生徒会活動をとおして、幼児児童生徒の主体的活動を支援している。	評価 人数	4 15	3 10	2 1
2-5	学校は、インフォームド・コンセントの推進に努め、支援計画や指導計画の共有等、保護者支援の充実を図っている。	評価 人数	4 13	3 13	2 1
3	キャリア教育について		3.5	3.4	3.4
3-1	学校は、幼児児童生徒・保護者の希望を尊重し、幼・小・中・高一貫した進路指導を進めている。	評価 人数	4 10	3 13	2 3
3-2	学校は、望ましい勤労観や職業観を持つことができるよう、各学年に応じた進路学習や就業体験を計画的に進めている。	評価 人数	4 14	3 11	2 1
3-3	学校は、社会的自立や職業的自立を意識し、進路に関する情報提供や適切なアドバイスを行っている。	評価 人数	4 11	3 12	2 3

3-4	学部のキャリア教育計画に基づき、実践している。	評価 人数	4 10	3 14	2 2	1 	3. 4	3. 4	3. 3
4 センターの機能について							3. 8	3. 6	3. 7
4-1	学校は、早期教育相談及び多様な教育相談を実施している。	評価 人数	4 21	3 5	2 	1 	3. 8	3. 7	3. 8
4-2	学校は、公開講座等聴覚障害への理解・啓発を図っている。	評価 人数	4 16	3 10	2 	1 	3. 8	3. 5	3. 6
4-3	学校は、特別支援教育の啓発と推進のために他機関等と連携協議会を実施したり、地域や他校の要請に応じたりとセンター的機能を果たしている。	評価 人数	4 15	3 11	2 	1 	3. 8	3. 6	3. 6
5 学校運営について							3. 6	3. 5	3. 5
5-1	学校課題が、職員間で共通理解され、達成に向けた取り組みが行われている。	評価 人数	4 5	3 19	2 	1 	3. 6	3. 3	3. 1
5-2	各学部、各分掌「報告・連絡・相談」が十分に図られ、効率的な教育活動がなされている。	評価 人数	4 7	3 18	2 1	1 	3. 3	3. 2	3. 2
5-3	学校は、授業参観や学級懇談などを行い、保護者と話し合う機会を十分設けたり、保護者の意見を聞いたりしている。	評価 人数	4 20	3 5	2 1	1 	3. 8	3. 6	3. 7
5-4	学校は、地域に向けて、本校並びに本校の幼児児童生徒の理解啓発に努めている。	評価 人数	4 13	3 12	2 1	1 	3. 6	3. 5	3. 5
5-5	学校は、各分掌の活動の資料や記録を適切に整理し、活動内容の評価を行い、改善・充実を図っている。	評価 人数	4 13	3 12	2 1	1 	3. 5	3. 4	3. 5
5-6	分掌組織は、年齢や経験等のバランスが考慮された組織となっている。	評価 人数	4 8	3 16	2 	1 	3. 5	3. 1	3. 2
5-7	学校は、施設・設備について定期的に点検を行い、管理が行われている。	評価 人数	4 15	3 11	2 	1 	3. 6	3. 5	3. 6
5-8	学校は、非常災害や事故発生時における対応マニュアルを作成し、対応するために共通理解を図っている。	評価 人数	4 17	3 7	2 1	1 	3. 7	3. 6	3. 6
5-9	学校は、いじめを見逃さないよう幼児児童生徒の学校生活の把握及び指導を行っている。	評価 人数	4 16	3 10	2 1	1 	3. 6	3. 6	3. 6
5-10	学校徴収金について、用途が明確にされ、計画的に執行されたり通帳を用いて適正に管理されたりしている。	評価 人数	4 19	3 7	2 	1 	3. 8	3. 6	3. 7
5-11	学校は、各種便りやホームページ等を活用し、教育活動や学校生活についての情報発信に努めている。	評価 人数	4 16	3 9	2 1	1 	3. 8	3. 8	3. 6
5-12	学校は、業務改善やスクールサポートスタッフの活用によって多忙化の解消が図られている。	評価 人数	4 9	3 16	2 1	1 		3. 4	3. 3
全平均							3. 6	3. 4	3. 4

意見・要望等

- ・聾学校の専門性について
- ・子どもの主体性を促す指導について
- ・職員間の共通理解について
- ・高等部卒業後の進学・就職を見据えた指導について
- ・ハラスメントへの対応について
- ・情報・視聴覚を統合した分掌を作ってほしい
- ・青ろう良くし隊の活動について
- ・学舎部会の持ち方について

集計結果の概要

全評価項目において、平均が3（おおむねそのとおり）以上であり、全体の平均値は昨年度から変化は見られない。

指導力の向上に関わる「子ども一人一人の実態とニーズに対応した言語発達の向上」「実態や特性に配慮した授業の工夫」「基礎的・基本的な学習内容の定着・向上」の項目が0.2ポイント下降している。

キャリア教育に関わる「一貫した進路指導」と「情報提供やアドバイス」の項目が0.2ポイント下降している。

自由記述にもあるように子ども一人一人の実態を考えて指導にあたる必要がある。また、学校課題の職員間での共通理解については昨年度に続いて下降しており、改善が求められる。

センター的機能に関わる「教育相談」及び「公開講座等聴覚障害への理解・啓発」の項目で昨年度から向上している。